

3.男女の割合

インターネット利用者の男女の割合は、図4（CSJ調査。N=2,382）では男性93.2%に対し女性6.8%、図5（インプレス調査：既接続者のみ対象。N=950）では男性96%に対し女性4%である。巷間、「日本の女性の利用者は1割に満たない」といわれてきたことを、改めて実証した結果となった。

サンプルのとり方によって結果が異なるのは当然だが、図4に比べて図5の女性の占める割合が低いのは、オンラインと雑誌という調査手法の違いが要因の1つになっていると思われる。つまり、インターネット利用者が必ずしも雑誌の購読者ではないわけだから、活字を敬遠しがちな女性の利用者まで十分にすくい上げられなかった可能性が考えられる。

ちなみに、CSJが95年6月25日から7月2日に行った同様のオンライン調査では、女性の割合は4%だった。単純に考えれば、4か月間で3ポイント近く上昇したことになる。が、数字が小さいだけに、必ずしも女性の割合が高くなっているとはいえない。いずれにしろ、この2つのデータだけを基にして、現在の時点で女性の占める割合を断定するのは早計すぎるだろう。

ただし、利用者全体が増加していること考えれば、女性の数も伸びているのは確かなようだ。

4.地域分布

地域別の利用者の分布状況を表したのが図6（CSJ調査）、図7である（インプレス調査：既接続者のみ対象。N=950）。一見してわかるとおり、「東京」および「東京（都）以外の関東」が高い数字を示している。両ブロックを合わせると図6では全体の55.1%、図7では53%を占める。「東京（都）以外の関東」では神奈川、千葉、埼玉といった東京に隣接した地域での普及が目立つ。

この傾向は地方でもほとんど変わらない。大阪、愛知、兵庫、京都、福岡、北海道など、政令指定都市を持つ道府県の多くが周辺地域から抜きん出た状況となっている。地域的な情報格差を縮小することが期待されているインターネットであるが、他のメディアと同様、大都市主導で推移しているのが実状のようだ。

しかし、前述したCSJの6月の調査と比較すると、「東京」は前回（6月）の37.5%から、今回（10月）24.1%と13.4ポイントも減少。その分を「東京都以外の関東」（6.5ポイント増加）をはじめ「近畿」（4ポイント増加）や「中部・甲信越」（2.3ポイント増加）などが取り込んだ格好となっている。全体的には大都市主導ではあるものの、地方への普及もかなり進展していると想像される。

今後、プロバイダーによるアクセスポイントの整備がさらに進み、さらに地元CATVとの乗り入れなども行われるようになれば、そうした傾向によりいっそう、拍車がかかるものと思われる。

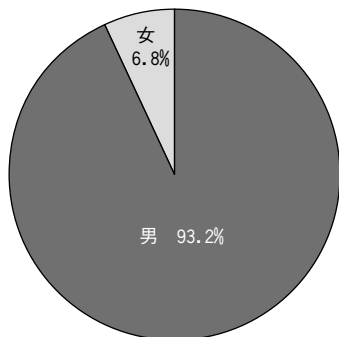


図4 男女の割合 (C)

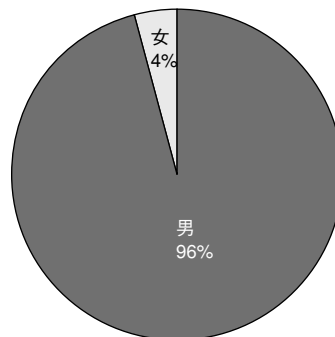


図5 男女の割合 (I)

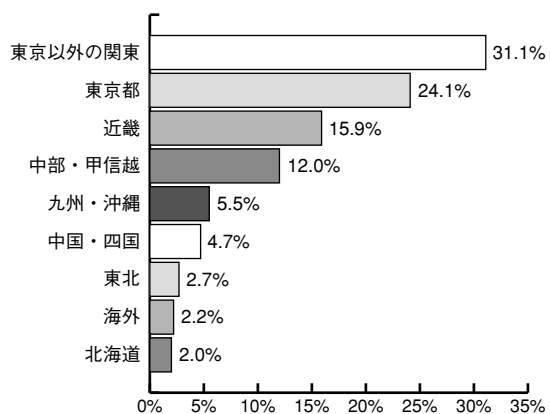


図6 地域分布 (C)

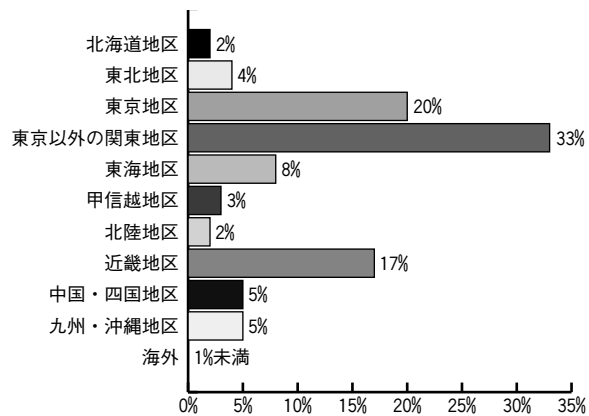


図7 地域分布 (I)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp